

朝日 歌壇 俳壇



〈日曜日のブローチ 21〉 junaida

● 佐佐木幸綱選

終演後テントを囲む小屋に点くサーカス団員の
の部屋（名古屋）百々 奈美
塚ちゃん（心やさしき中学生「板大海」と相
成りました）（越谷市）小沢紀美子
「縄跳びが出来る長さ」の感想は寝てい
のだ青大将（枚方市）久保 哲也
朝イチのバスに乗る吾に弁当を持たせ続けた
病む妻の朝（春日市）横山 辰生
どの局のどのドラマにも母がある母を止し
た孫と観てをり（愛媛県）八木久美子
鶏殺す厨師兵士の父なりし戦後一度も鶏を喰
はざり（神戸市）横井 司
お盆にて席もまばらな学童に送っていく朝道
草多め（朝霞市）小峰 拓朗
帰り際窓拭くように手を振れり余命知らずや
病室の母（常陸太田市）鈴木 盛雄
ラーメンの出前の如くノベル賞注文しちゃう
米大統領（福島市）安斎真貴子
亡き父のレンタルベッド返却し車座で吞む初
七日の夜（宇治市）濱岡 学

【評】第一首、サーカス団員たちの小屋をうたって独特の一首にしあげた。第二首、十両・板大海は作者の教え子だという。中学時代「塚ちゃん」と呼ばれていたらしい。第三首、日本本土にいる蛇のなかで青大将はもっとも大型だという。

● 高野公彦選

広島で正田篠枝の骨の歌くりかえし読む石破
総理は（横浜市）人見 江一
広島忌八時十五分手を合はす遠き異国の戦禍
も思ひ（広島市）金田 美羽
被爆地の最後の地となれ鳴り響く浦上天主の
双塔の鐘（観音寺市）篠原 俊則
AIを使い密かに人生の間違い探してみた
い夜（神戸市）益田 信行
識字率高き国でもITで詐欺に遭う人増えゆ
くばかり（長崎市）田中 正和
☆外堀が埋められてゆく感覚に梅酒のロックの
二杯目頼む（富山市）松田 梨子
☆一心、蓮音、琉碧、陽桜、絢心、翔音、光雲、球児
の翔る夏の甲子園（大阪市）小倉 佳子
根拠なく良い人だろと思うのは街角ピアノ
で「ふるさと」弾く人（横浜市）杉本 恭子
墓石の撤去された矩形地がいくつもあて
村の墓団地（魚沼市）磯部 剛
夕暮に車の窓を開けて行く稲穂の匂う秋風の中
（北名古屋市）月城 龍二

【評】1首目、2首目、3首目はそれぞれの観点で広島・長崎を詠んだ秀歌である。正田さんは広島生まれ、歌は「太き骨は先生ならむそのそばに小さきあたまの骨あつまれり」。4首目、無理かもしれないが、できれば知りたい、との願い。

● 永田和宏選

影ある人あればこそ人消えて影のみ遺る石
の階（名古屋）浅井 克宏
パイロットのやりと笑ったあの顔が忘れら
れんと義母の遠い目（浜松市）久野 茂樹
爆心地に立つも弟をハグするもこれが最後の
訪日となる（アメリカ）大竹幾久子
最後まで残ると決めたあの人があから残る
限界集落（霧島市）秋野 三步
すててこも別に洗えと口にする娘十六思春期
たけなわ（越谷市）小田 穂藻
もう母と並んで歩くことはなく似ていると言
われるのも悪くない（東京都）上田 結香
朝顔と揚羽とわれとこの星の水を分け合う八
月の朝（大津市）萩原 愛
☆外堀が埋められてゆく感覚に梅酒のロックの
二杯目頼む（富山市）松田 梨子
お父さん残して逝くは罪ですと娘は真顔で
会ふ度に言ふ（尼崎市）小石 絹子
「おちび」とよび「にゃあ」とこたえて十余
年大きくなったも「おちび」のままで（大阪市）清 富佐子

【評】浅井さん、広島平和記念資料館に遺る「人影の石」。影の本体たる人が亡く、影のみが遺るという絶対不条理。久野さん、機銃掃射のため降りてきたパイロットの顔が見えたという話が多い。現在のドローンによる空爆も、どちらも怖い。

● 川野里子選

怪我人は無しとニュースは報じたり千羽死に
たる鶏舎の火事を（観音寺市）篠原 俊則
ライオンとツキノワグマとオオカミがいっし
よにねむる真夜の病室（佐倉市）塩田 真知
夜勤明け師長モードを愛えられず手洗い甘い
子供を叱る（京都府）片山 正寛
まっすぐな腕伸びはウルトラマンに似て迷い
を知らぬ背筋が光る（柏市）伊藤 智紗
☆一心、蓮音、琉碧、陽桜、絢心、翔音、光雲、球児
の翔る夏の甲子園（大阪市）小倉 佳子
「終戦日」と言われて動かね馬の耳「敗戦
日」と聞きビクリと動く（鎌倉市）佐々木 眞
電動のベッドの下に紙パンツ、パッド揃えて
華やかに生く（札幌市）橋 晃弘
道端に打ち捨てられし扇風機本能のごと羽回
しおり（東京都）豊間根道子
黙禱のときもしかり見開き目配り続ける
ボディーガードは（岡崎市）兼松 正直
二〇二五年八月六日八時 おくらをひとつひ
とつ採っている（富谷市）川村 空也

【評】一首目、人間と鶏の命の価値の差に愕然とする。二首目、普通なら一緒に眠ることなどない個性濃い同室者たち。三首目、病院での仕事の緊張感が抜けないのだ。十首目、日常が一瞬で地獄となった広島。噛みしめ味わう普通の暮らしだ。

うたをよむ 世界や未来をも映す鏡

菅原百合絵

短歌は日本的な詩型だと言われるが、初期の和歌が万葉仮名によって表記された歴史や、漢詩的な着想からの濃密な影響を考へても、必ずしもそうとは言えない。そもそも成り立ちに異邦性を孕む短歌が、世界に目を向け、時代を映す鏡となるのは当然とも言えよう。

政権を支持する友が美しくこちらへリモコンを構える 千種創一
千種創一『砂丘律』では、中東に赴任した作者の生活と、テロや虐殺など緊迫した事件が地続きで描かれる。何気ない友人の仕事で、銃口を向けられるように感じる。「政権」の背後には、それほど深い分析が横たわっている。自爆テロはいまkamikazeと呼ばれ、若く死にゆくことのみ似たる 松本実穂

バタ克蘭劇場での大惨事によって記憶される十年前のバリ同時多発テロ事件発生時、フランスに住んでいた作者は、当時の空気を鋭く捉えている。中東でか。歌は恐ろしい鏡でもある。（歌人）

第61回短歌研究賞 短歌研究社主催。俵万智さんの20首詠「白き父」に決まった。〈心って燃えるんだっけ骨となり箱詰めされてゆく白き父〉
馬場めぐみ歌集「無数を振り切っていけ」
2011年の短歌研究新人賞受賞作を含む第1歌集。「身を投げる無数の窓を振り切って生き延びて今晴れた公園」（短歌研究社・2420円）

☆は共選作。入選作はデジタル版などに掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿でき

